

御暇之節は家督へ銀拾枚、部屋住へ時服一重被下置候、此節も例之通御禮廻りす、古來は御暇被下、四、五、日茂過、上方へ歸る、今は御暇出候ても在江戸也、此譯道悅所に記す、乍然古來之例にて御暇之内、正月より三月迄は拾人扶持上る、四月より十二月迄は十人扶持被下候、江戸詰之内故なり、部屋住へも拾人扶持被下候、

〔本因坊家略紀〕三代目本因坊道悅 出生石見

御城基被仰付候前に、下打仕候事は、筭知道悅二十番せり合碁之内、六ヶ敷碁出、御老中様方御退出之時分迄に相濟不申候に付、御月番之御老中様へ下り相濟申候、重ては被仰出候は、向後御城にて勝負付候様と被仰出候、依之御城基下打致候事、此時より始り申候、夫迄は古來より道悅迄も、下打と申事なく御城にて直打なり、扱又古來は御暇出候得者、上方へ罷歸候得ども、筭知道悅せり合被仰付候節、上り下り仕候ては、出會打候も間遠に相成第一碁磨のためにも障候に付、此儀も奉願上候處、尤之由にて願之通被仰付候、是より御暇出候ても、今に江戸に罷在候様に成申候、然共四月朔日參上之御目見被仰付、十一月御城基被仰付、十二月御暇、拜領物等仕候格式は相替不申、

〔大猷院殿御實紀〕二十九、寛永十二年十二月朔日、碁將碁師等、祿秩あらざるをもて、大津に於て廩米をたまふべしと令せらる、

〔玉露叢〕四十、延寶三年ノ參勤御暇ノ扣下

十一月廿八日ニ、圍碁象戲ノ面々御暇ヲ下サル、算知本因坊宗看、各白銀十枚、算哲道策宗桂、各白銀十枚ニ時服二、宗興門入因碩、各白銀十枚、春知時服二ヲ玉フ、

〔視聽草〕六集九、碁道珍話

手直

階級